

「三重県の食に関する取組について」 e-モニターアンケート実施報告書

「三重県の食に関する取組について」のアンケートの実施結果を、下記のとおりご報告いたします。

アンケートにご協力いただきました e-モニターの皆様には厚くお礼を申し上げます。

結果につきましては、今後の取組に活用させていただきます。

アンケート概要

- 1 実施期間 令和元年 11 月 5 日（火）から 11 月 19 日（火）まで
- 2 対象者数 1,071 人
- 3 回答数 688 人
- 4 回答率 64.2 %
- 5 回答者属性

【年齢階層別】

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代
回答者数	2 人	41 人	141 人	181 人
構成比	0.3%	6.0%	20.5%	26.3%
	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上	
回答者数	151 人	123 人	49 人	
構成比	21.9%	17.9%	7.1%	

【地域別】

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答者数	345 人	194 人	82 人	53 人	14 人
構成比	50.1%	28.2%	11.9%	7.7%	2.0%

北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

中南勢：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町

伊賀：名張市、伊賀市

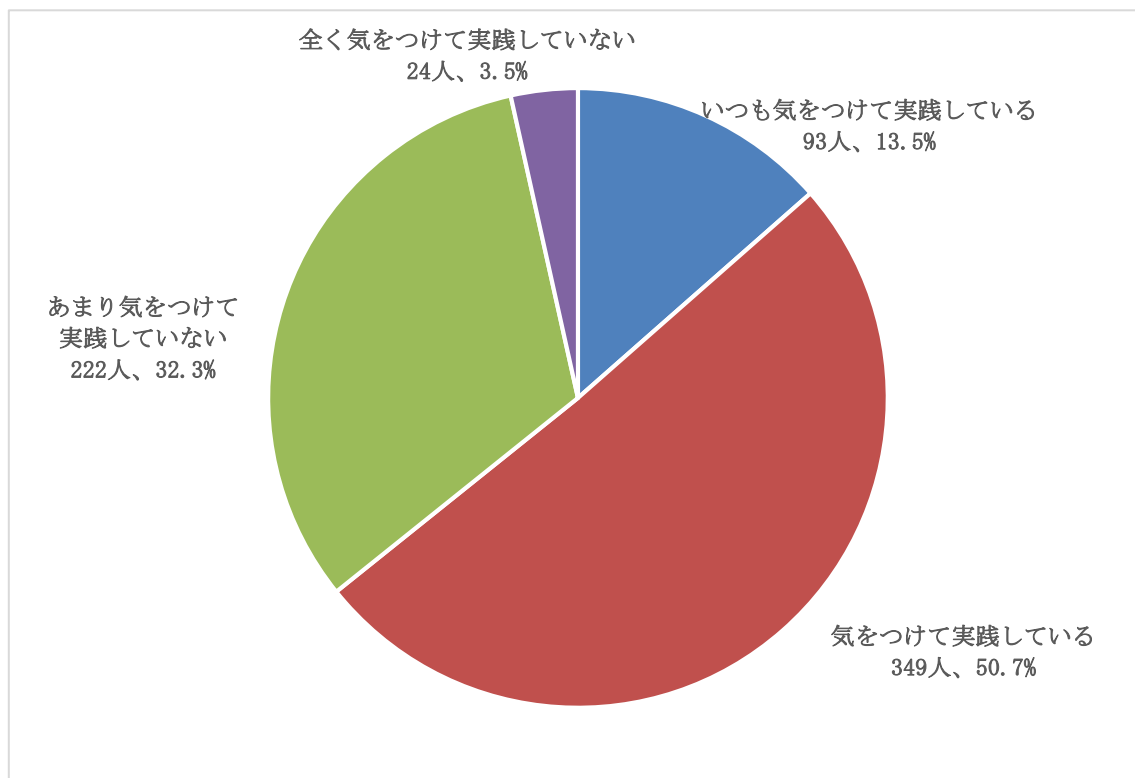
東紀州：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

(注) グラフ、説明文中の割合は小数点第 2 位で四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

○アンケート結果

(Q1 健康を意識した食生活の実践について)

生活習慣病の予防や改善のために、あなたはふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

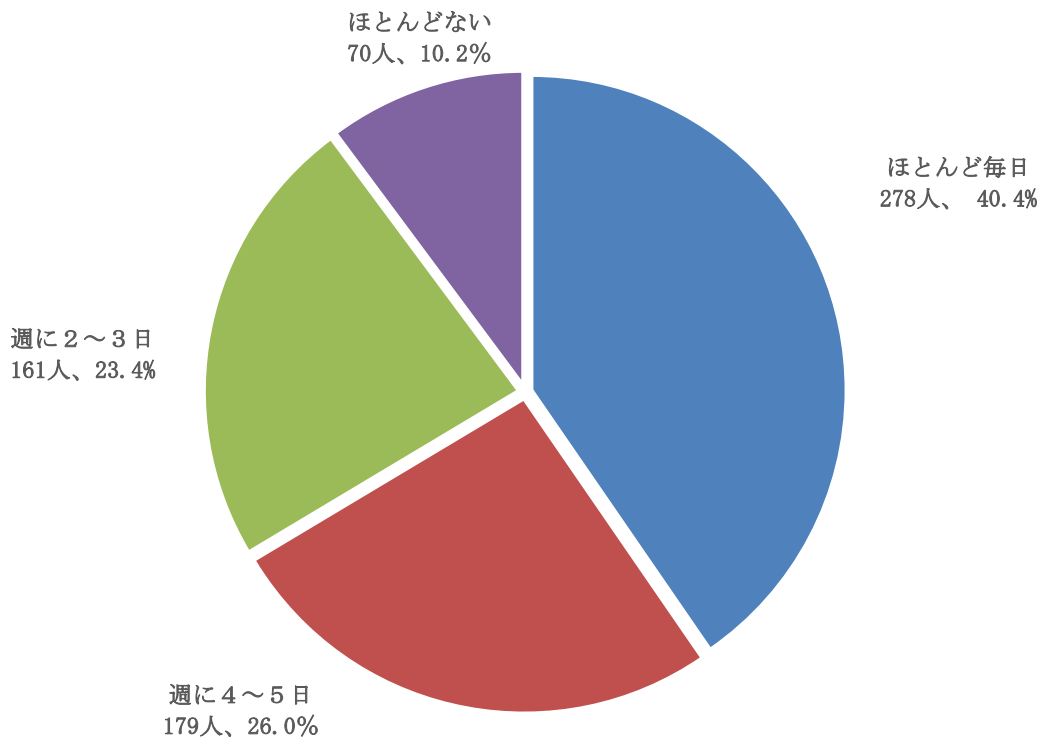


健康を意識した食生活を実践しているかについて聞いた結果、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と答えた方が 442 人 (64.2%)、「あまり気をつけて実践していない」「まったく気をつけて実践していない」と答えた方は 246 人 (35.8%) でした。

H30 年度の e-モニターアンケートで「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答された方は 67.3% であり、健康を意識した食生活を実践している人の割合がわずかに減りました。

(Q2 バランスよく食べることについて)

主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）、副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせることで1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。あてはまるものを1つ選んでください。



バランスよく食事するかどうかについて聞いた結果、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることで1日に2回以上あるのが「ほとんど毎日」と回答された方が、278人（40.4%）、「週に4～5日」と回答された方が179人（26.0%）で、週の半分以上の日でバランスよく食事できているのは457人（66.4%）と全体の3分の2程度を占めていました。

H30年度のe-モニターアンケートでは68.6%であり、バランスよく食べる人の割合がわずかに減りました。

(Q3 家族との食事について)

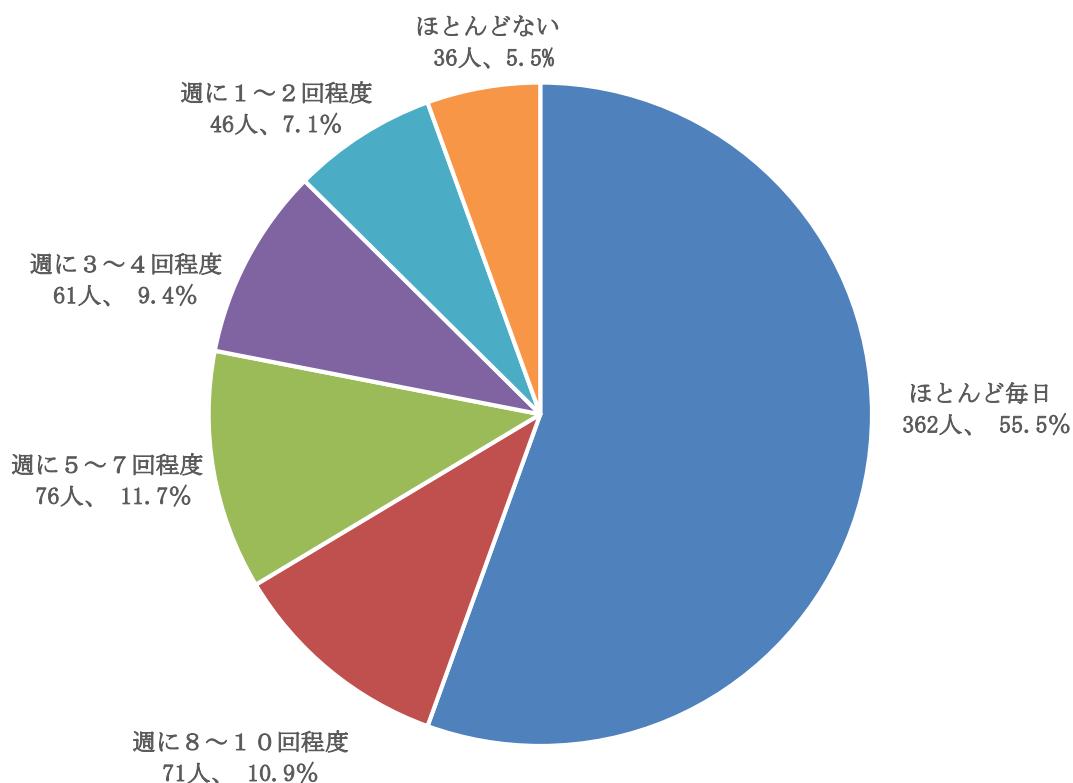
同居家族がいらっしゃる方にお聴きします。

家族と一緒に食事をする機会はどの程度ありますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

※家族数は問いません。

※朝食および夕食の場合でお答えください。(1週間で総数14回になります。)



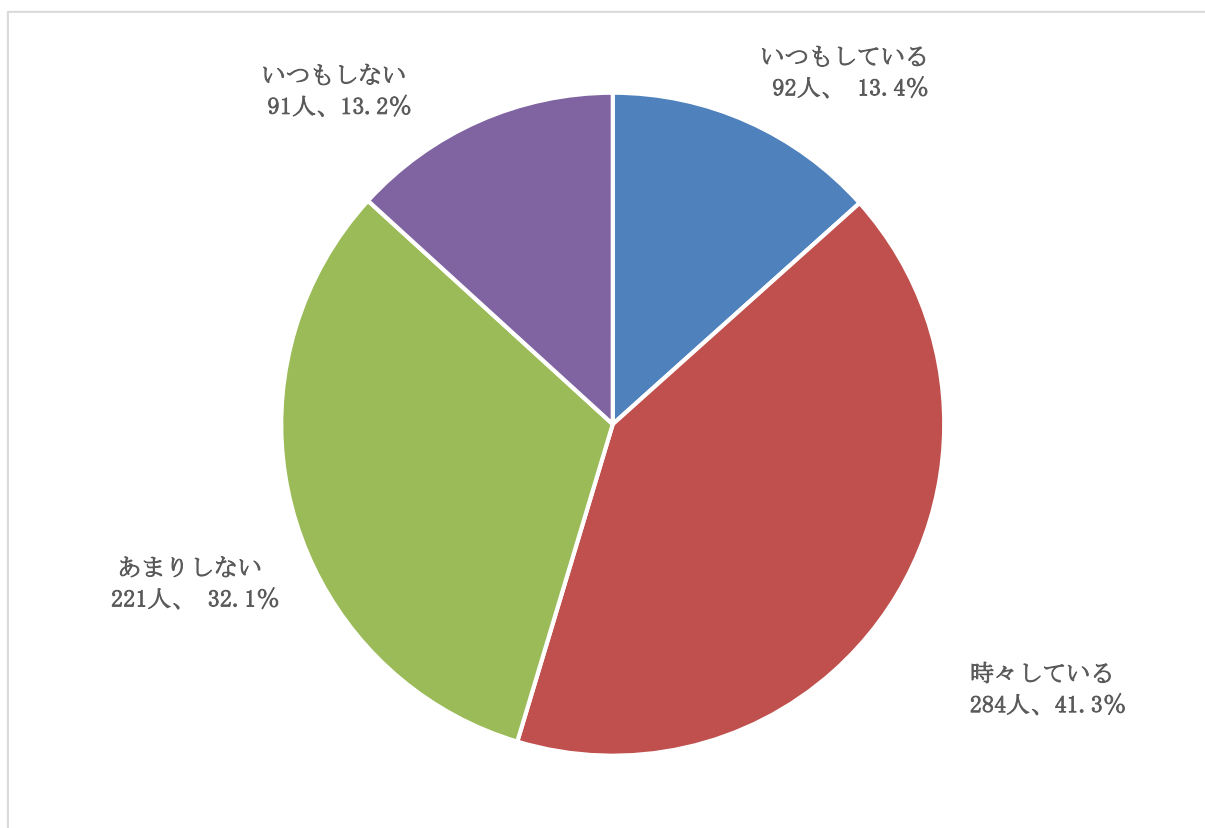
家族と一緒に食事をする機会について回答していただいた方 652 人のうち、「ほとんど毎日」と回答された方が、362 人 (55.5%) で、「週に 8~10 回程度」と回答された方 71 人 (10.9%) を合わせると 433 人 (66.4%) とほぼ 3 分の 2 を占めました。

H30 年度の e-モニターアンケートでは「ほとんど毎日」「週に 8~10 回程度」と回答された方は 69.4% であり、家族と一緒に食事をする人の割合がわずかに減りました。

(Q4 栄養成分表示について)

栄養成分表示が平成27年4月から義務化となりましたが、あなたは、(経過措置期間は令和2年3月31日まで) ふだん食品を購入する時に、栄養成分の表示を参考にしていますか。

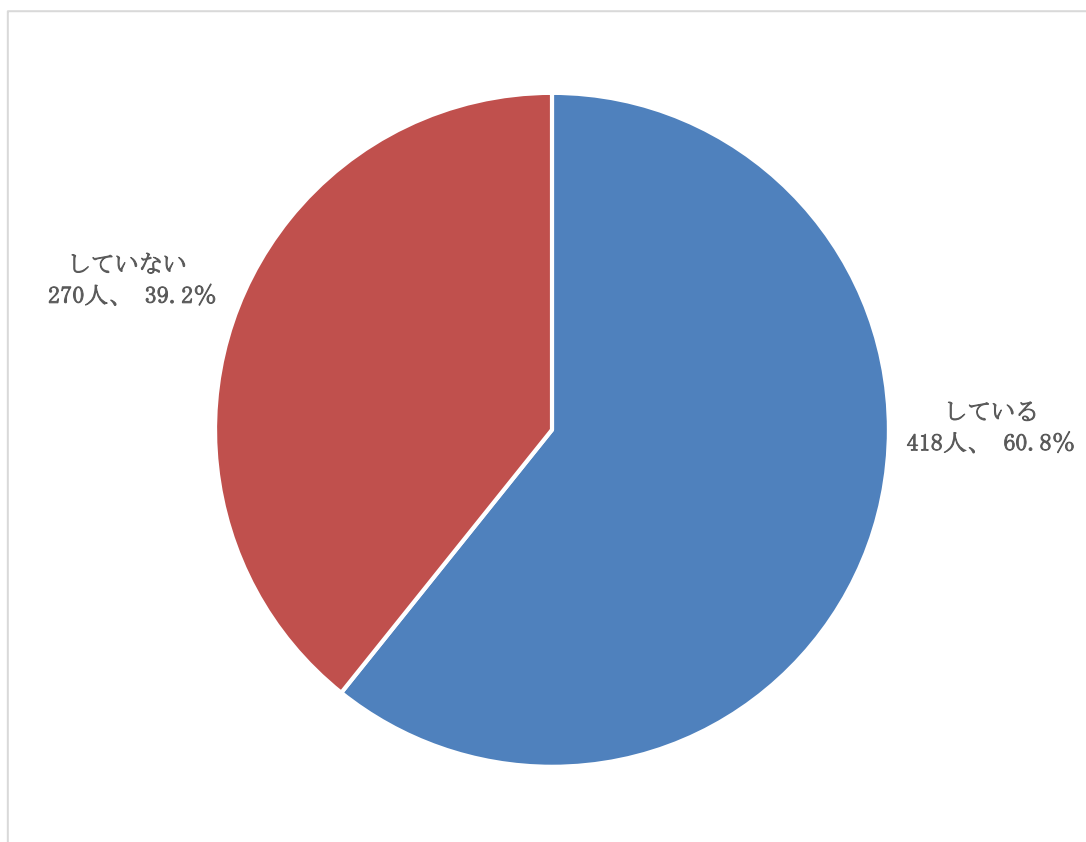
あてはまるものを1つ選んでください。



食品を購入する時に栄養成分表示を参考にしているかについて聞いた結果、「いつもしている」と回答された方が92人(13.4%)でした。「時々している」と回答された方284人(41.3%)を合わせると、376人(54.7%)と、半数以上の方が栄養成分表示を参考にしていました。H30年度のe-モニターアンケートでは、「いつもしている」「時々している」と回答された方は53.5%であり、食品を購入するときに、栄養成分表示を参考にする人の割合はほぼ横ばいです。

(Q5 非常用の食料について)

県民の約6割の世帯が災害時に備えて非常用の食料を用意しています。あなたの世帯は用意していますか。



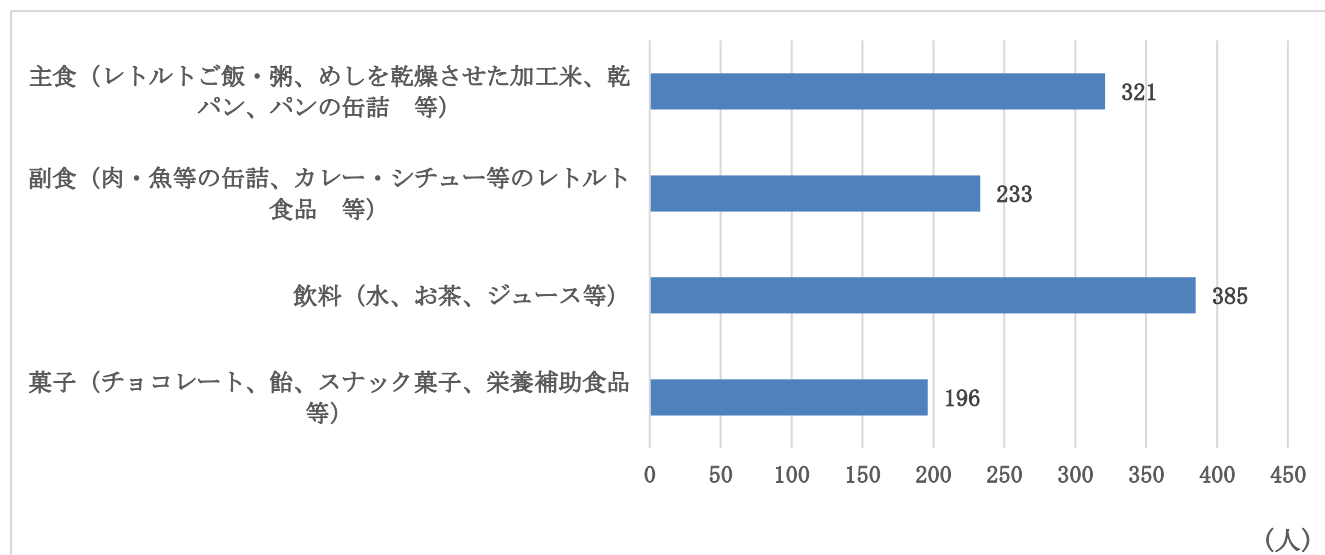
災害時に備えて非常用食料の用意を「している」と回答された方が418人(60.8%)でした。

平成28年度のe-モニターアンケートでは、「している」と回答された方が59.0%であり、非常用食料の用意をしている人の割合がわずかに増えました。

(Q6 非常用の食料について 2)

Q5で「している」を選んだ方にお聞きします。

あなたは、非常用食料としてどんなものを用意していますか。あてはまるもの全て選んでください。

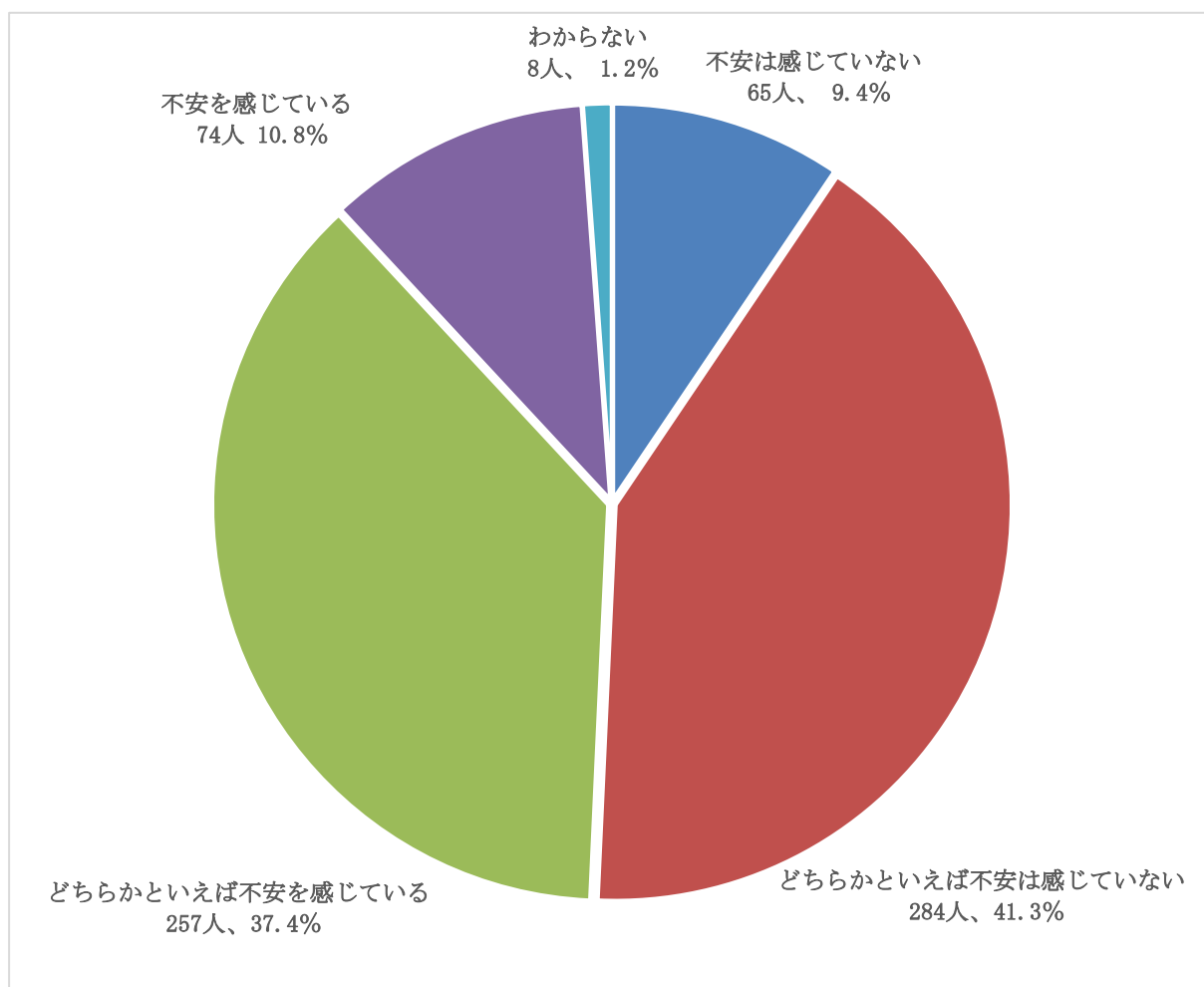


Q5で「している」と回答された方418人のうち、非常用食料として用意しているものについては、「飲料」と回答された方が385人(92.1%)で最も多く、次いで「主食」321名(76.8%)、「副食」233名(55.7%)、「菓子」196名(46.9%)と続きました。

平成28年度のe-モニターアンケートでは、「飲料」と回答された方が87.0%、「主食」は77.9%、「副食」は43.9%、「菓子」は43.8%であり、「主食」を除き、各品目で用意している方の割合が増えていました。

(Q7 食品の安全性について)

あなたは、食品の安全性について、ふだん不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。



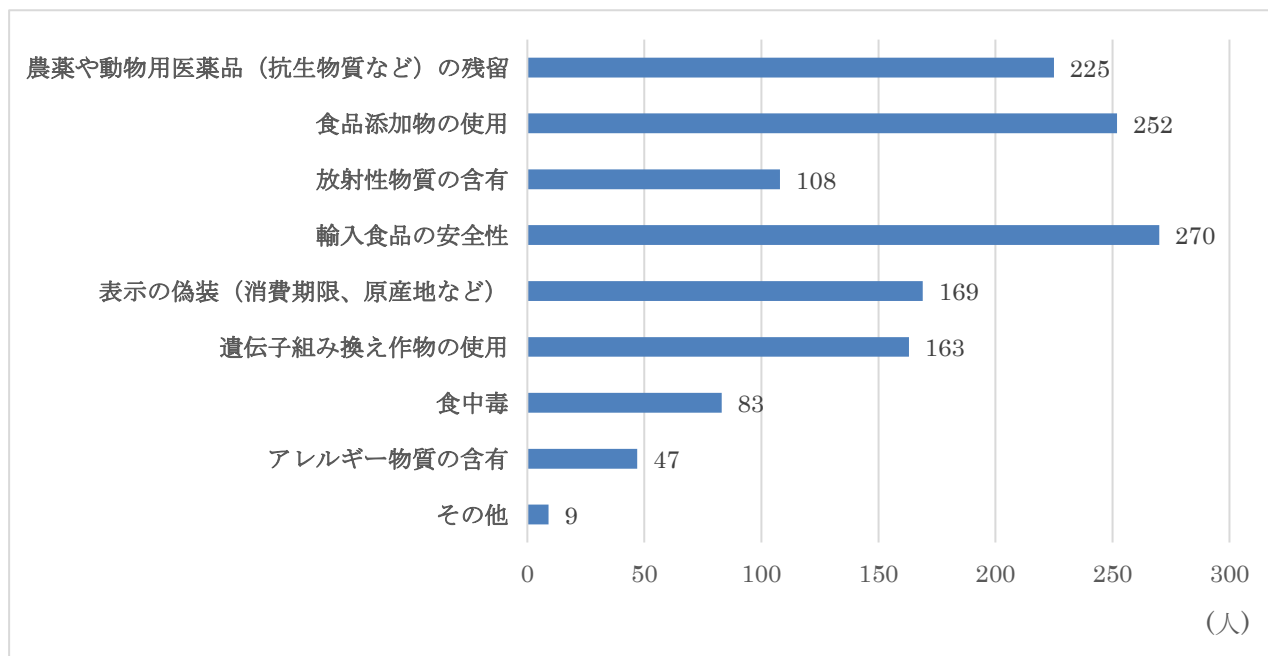
食品の安全性について聞いた結果、「不安を感じている」「どちらかといえば不安を感じている」と回答された方の合計が 331 人 (48.2%)、「不安は感じていない」「どちらかといえば不安は感じていない」と回答された方の合計は 349 人 (50.7%) でした。

H30 年度の e-モニターアンケートの結果と比べると、「不安を感じている」「どちらかといえば不安を感じている」という方の割合は減り (H30 年度は 51.7%)、「不安は感じていない」「どちらかといえば不安は感じていない」という方の割合が増えました (H30 年度は 47.1%)。

(Q8 不安を感じる理由について)

Q7で「どちらかといえば不安を感じている」「不安を感じている」を選んだ方にお聞きします。

あなたは、食品の安全性について、どのような不安を感じていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

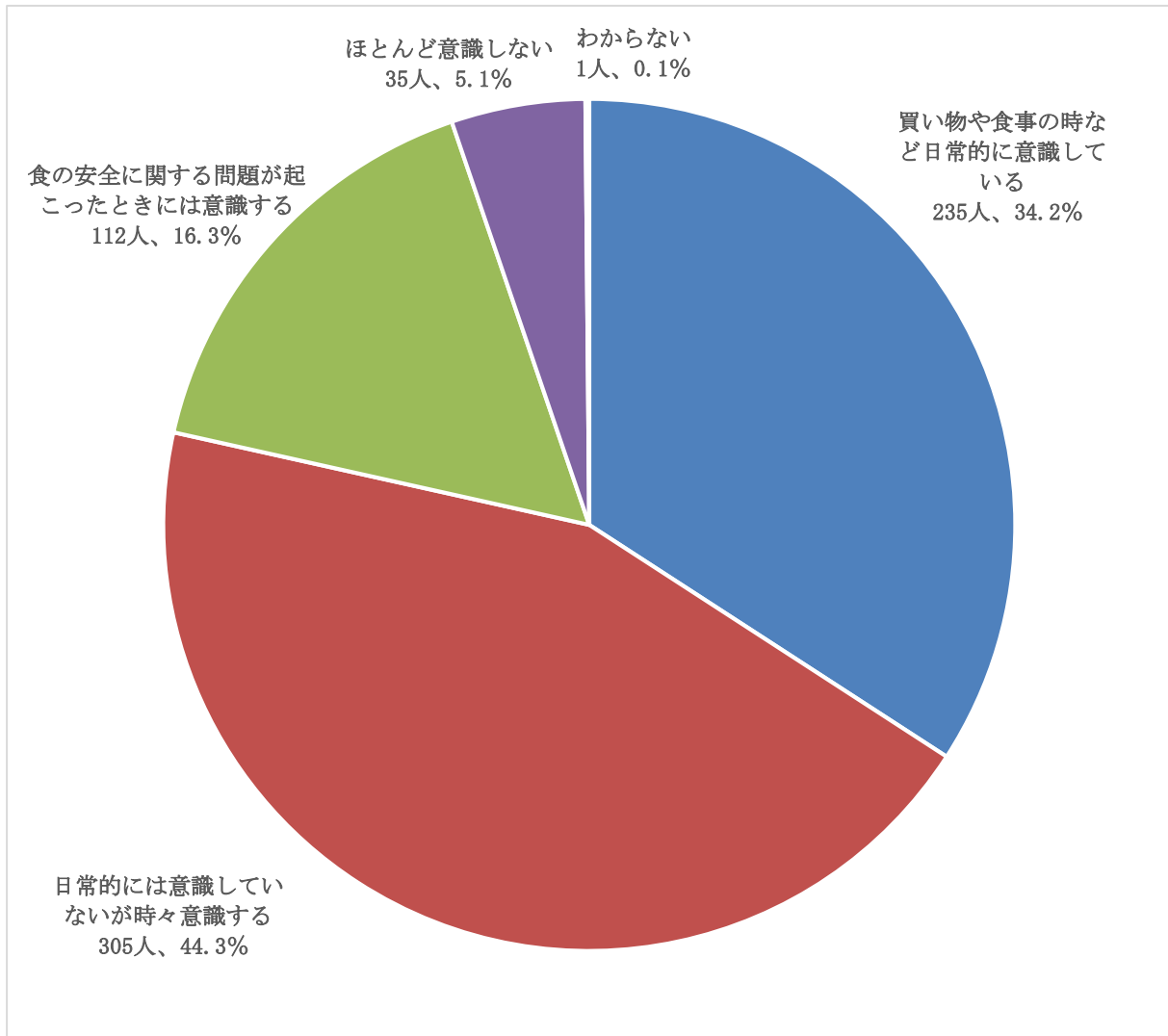


食品の安全性について、「どちらかといえば不安を感じている」「不安を感じている」と回答された方331人に、どのような不安かについて聞いた結果、一番多かったのが「輸入食品の安全性」と回答された方（270人、81.6%）、その次に「食品添加物の使用」と回答された方（252人、76.1%）、「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」と回答された方（225人、68.0%）と続きました。

H30年度のe-モニターアンケートの結果と同様に、「輸入食品の安全性」（H30年度は80.9%）、「食品添加物の使用」（H30年度は72.5%）、「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」（H30年度は66.0%）と回答された方が上位を占めました。

(Q9 食の安全に関する意識について)

あなたは、食の安全についてふだんどの程度意識しますか。あてはまるものを1つ選んでください。

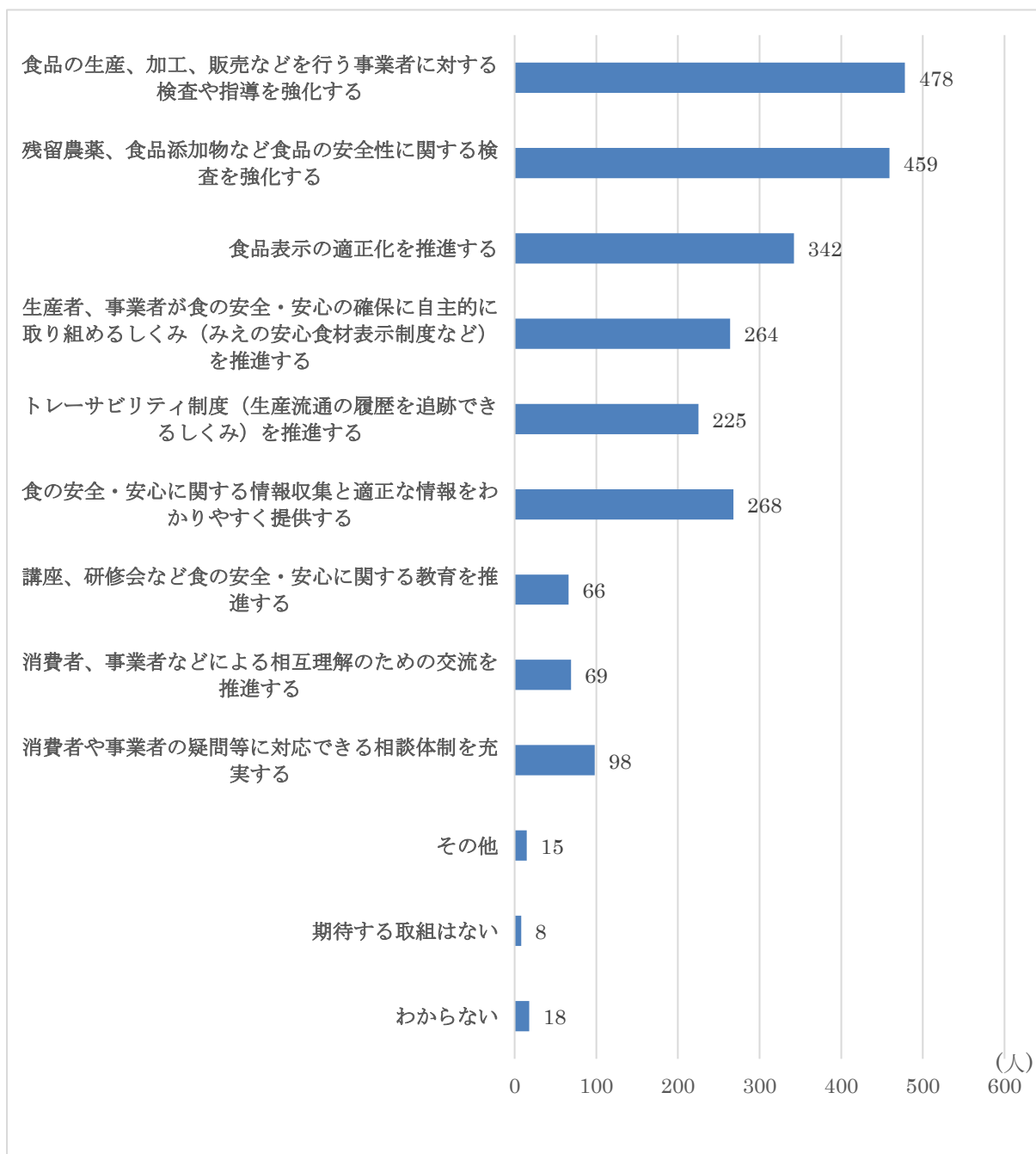


食の安全を意識するのはどのような時かについて聞いた結果、「買い物や食事の時など日常的に意識している」、「日常적으로는意識していないが時々意識する」と回答された方が合計で540人(78.5%)、「食の安全に関する問題が起こったときには意識する」、「ほとんど意識しない」と回答された方は合計で147人(21.4%)でした。

H30年度のe-モニターアンケートの結果と比べると、「買い物や食事の時など日常的に意識している」、「日常적으로는意識していないが時々意識する」という方の割合が減り(H30年度は合計で82.0%)、「食の安全に関する問題が起こったときには意識する」、「ほとんど意識しない」という方の割合が増えました(H30年度は合計で17.6%)。

(Q10 食の安全・安心のために行政(国、県、市町)に期待する取組について)

あなたが食品の安全・安心を得るために、行政に期待する取組はどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。



食の安全・安心のために行政に期待する取組について聞いた結果、一番多かったのが「食品の生産、加工、販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」で478人(69.5%)、次に「残留農薬、食品添加物など食品の安全性に関する検査を強化する」が459人(66.7%)、さらに「食品表示の適正化を推進する」と回答された方が342人(49.7%)と続きました。

H30年度のe-モニターアンケートの結果においても、「食品の生産、加工、販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」(H30年度は65.9%)、「残留農薬、食品添加物など食品の安全性に関する検査を強化する」(H30年度は66.5%)、「食品

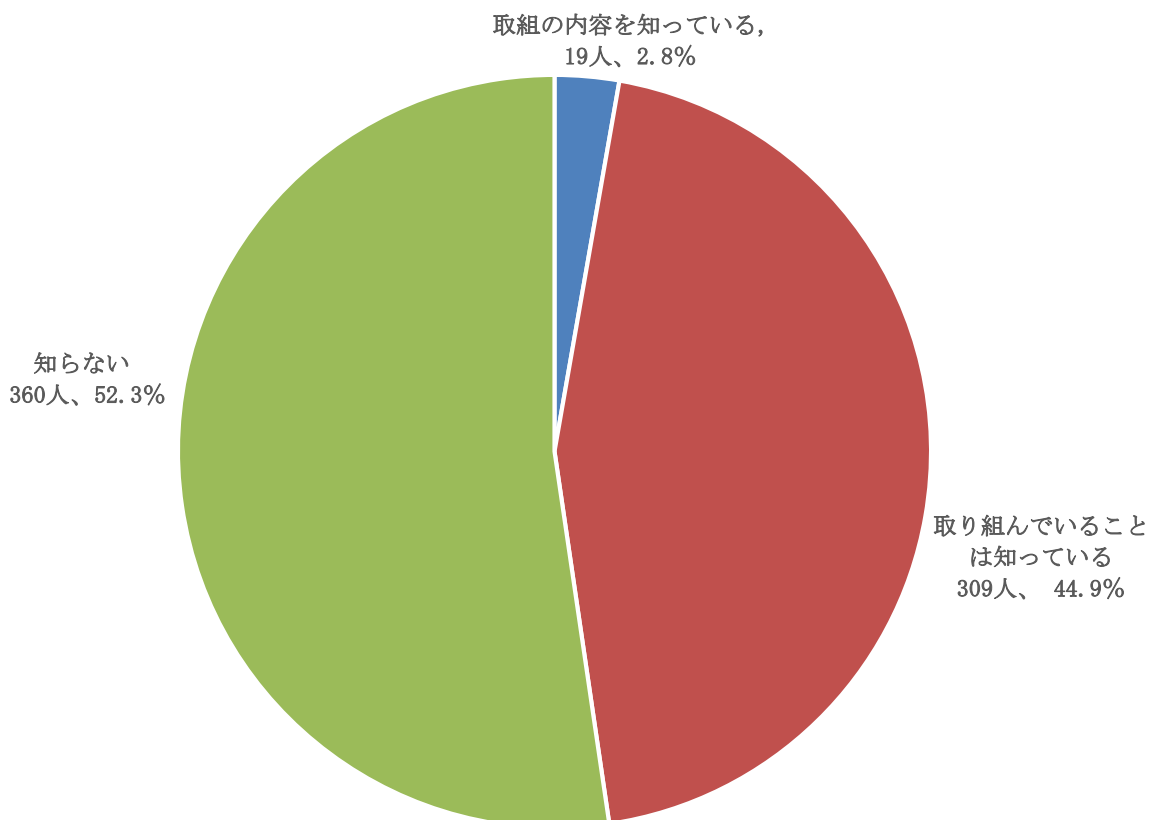
表示の適正化を推進する」(H30年度は49.3%)と、今年度の上位を占めた項目を回答された方の割合が多い結果となっています。

また、「その他」の回答としては、「輸入食品の検査の徹底」などがありました。

(Q11 食の安全・安心確保のための行政(国、県、市町)の取組について)

あなたは、食の安全・安心確保のために、現在行政が取り組んでいる具体的な取組をどの程度ご存じですか。あてはまるものを1つ選んでください。

※具体的な取組内容は、Q10の選択肢をご覧ください。

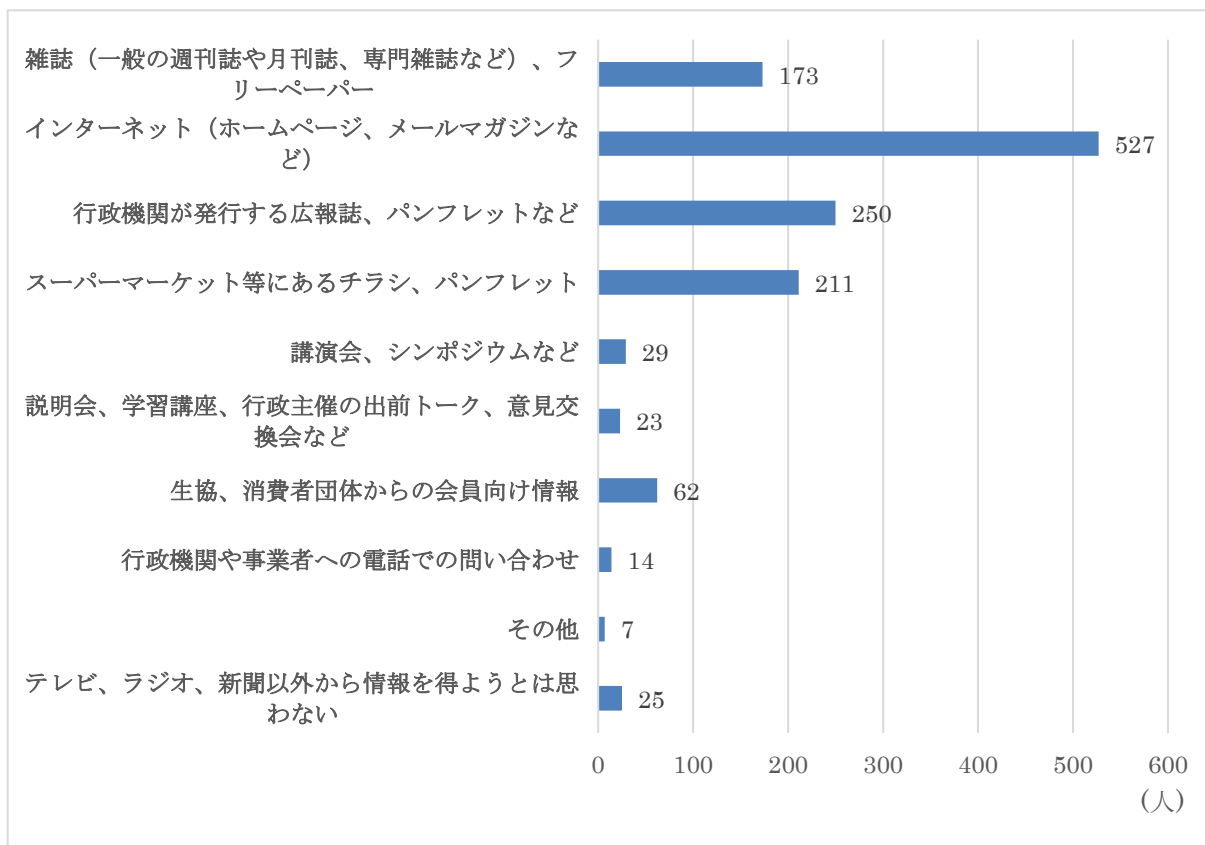


食の安全・安心確保のための行政の取組について聞いた結果、「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」と回答された方が328人(47.7%)で、「知らない」と回答された方360人(52.3%)をやや下回りました。

H30年度のe-モニターアンケートの結果と比べると、「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」人の割合が減り(H30年度は48.6%)、「知らない」人の割合が増えました(H30年度は51.4%)。

(Q12 食の安全・安心に関する情報を得る手段について)

あなたは、食の安全・安心に関する情報を知りたいと思った時、テレビ、ラジオ、新聞以外では、どのような方法で情報を得ようと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

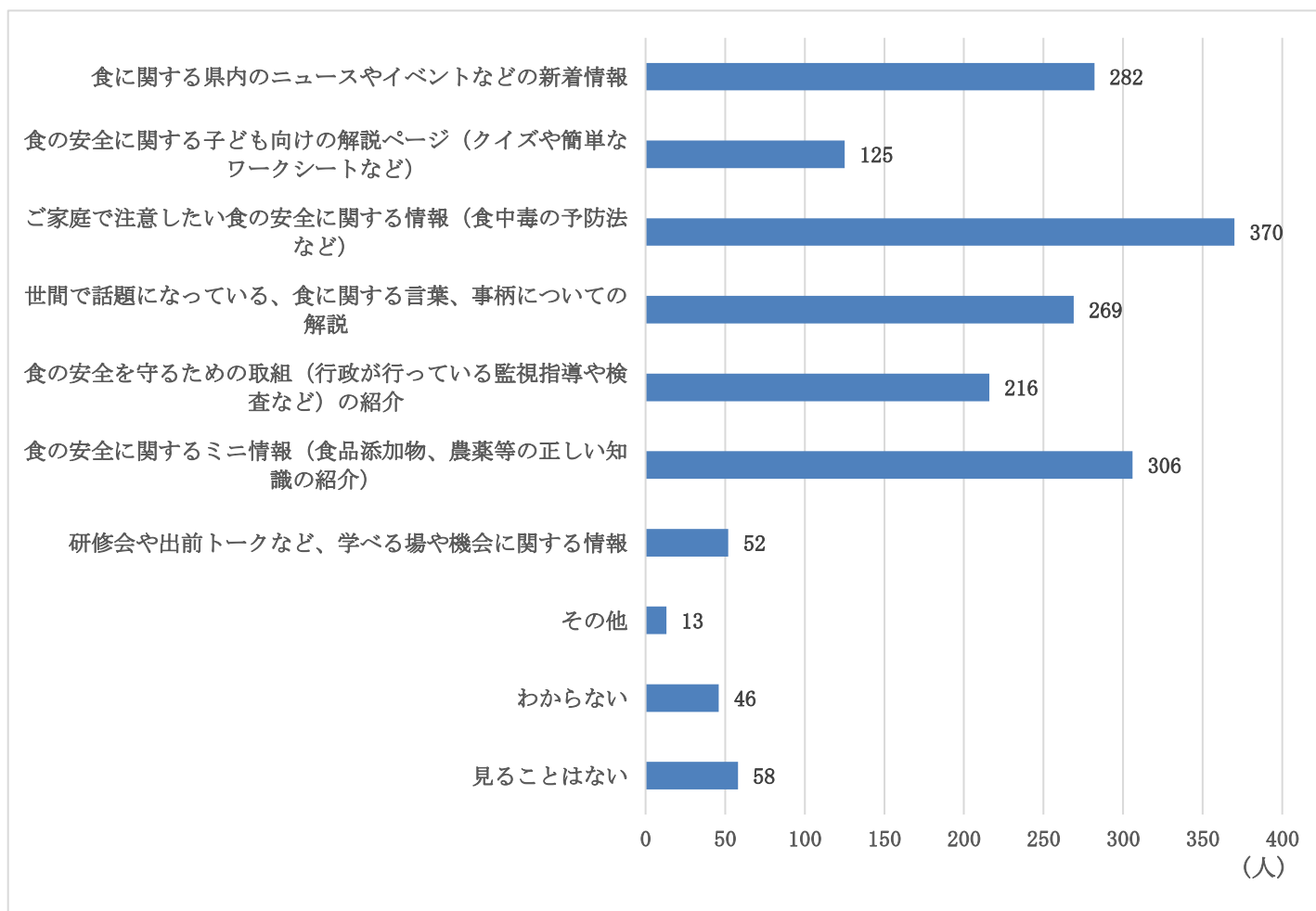


テレビ、ラジオ、新聞以外での食の安全・安心に関する情報を得る方法について聞いた結果、一番多かったのが「インターネット（ホームページ、メールマガジンなど）」で 527 人（76.6%）、その次に「行政機関が発行する広報誌、パンフレットなど」で 250 人（36.3%）、さらに「スーパーマーケット等にあるチラシ、パンフレット」と回答された方が 211 人（30.7%）と続きました。

H30 年度の e-モニターアンケートの結果においても、「インターネット（ホームページ、メールマガジンなど）」（H30 年度は 75.0%）、「スーパーマーケット等にあるチラシ、パンフレットなど」が（H30 年度は 35.7%）、「行政機関が発行する広報誌、パンフレットなど」が（H30 年度は 35.5%）と、今年度の上位を占めた項目を回答された方の割合が多い結果となっています。

(Q13 三重県のホームページ「食の安全・安心ひろば」について)

三重県では、「食の安全・安心ひろば」というホームページにおいて、食の安全・安心に関する情報や県及び事業者の取組などを掲載しています。あなたは、県のホームページ「食の安全・安心ひろば」に、どんな情報が掲載されていれば見てみたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



県のホームページ「食の安全・安心ひろば」に、どんな記事が掲載されていれば見てみたいと思うかと聞いた結果、一番多かったのが「ご家庭で注意したい食の安全に関する情報 (食中毒の予防法など)」が370人 (53.8%)、その次に「食の安全に関するミニ情報 (食品添加物、農薬等の正しい知識の紹介)」が306人 (44.5%)、「食に関する県内のニュースやイベントなどの新着情報」282人 (41.0%)と続きました。

「その他」の回答では、「農薬や食品表示の検査結果」や「料理のレシピ」といった意見がありました。

これらの回答を元にして、ホームページ「三重県食の安全・安心ひろば」の掲載項目、内容、ページなどを見直し、検討していきたいと思います。